

祝20周年まほろばの里「高畠」が現代に紡ぐ心

平成20年2月、高畠「小さな親切」の会は山形県下7番目の支部として発足しました。

子どもたちの豊かな心を育む活動に力を注ぎ、「小さな親切」実行章の推薦と贈呈をはじめ作文コンクール、あいさつ運動、車いす寄贈などを推進してきました。

高畠町は、奥羽山脈の山並み深く源流をもつ屋代川、和田川の扇状地に開けた実り豊かな美しい町で、「まほろばの里」として、また、日本のアンデルセンとも呼ばれる童話作家浜田広介の生誕の地としても知られています。

去る2月15日（土）、高畠「小さな親切」の会

（山形県高畠町）の設立20周年記念式典に出席するため、東京から新幹線つばさに乗車。2時間あまりで降り立った高畠駅には、暖冬ということでは雪はなく、冬とは思えないあたたかな日差しが降り注いでいました。

記念式典の会場は、よねおりかんこうセンター。会場は、表彰を受ける実行章受章者・作文コンクール入賞者をはじめ保護者の皆さん、来賓（山形県本部・米沢の会・長井の会、小中高等学校の校長先生など）、役員で埋め尽くされました。

高畠町長・寒河江信さんなどの来賓祝辞の後、「伝えたい、日本の心」と題して、人と人をつなぐ親切の大切さについて講演をさせていただきました。表彰式を前に緊張しているにもかかわらず、1時間の講演の間、誰一人私語をしたり、飽きて体を揺らす子どもがいなことに驚かされました。

休憩をはさみ、表彰式です。「小さな親切」

実行章受章者、作文コンクール入賞者が一人ひとり壇上に登壇し、島津仁道代表より賞状を受け取ります。ここでも、子どもたちはみな立派で、晴れの表彰式にふさわしいすがすがしい姿に感心。最後に、3名が優秀作文を朗読し、記念式典が和やかに幕を下ろしました。

式典終了後には、別室で祝賀会。高畠の運動発足時には事務局長をされ、その後会長を務められた太田邦夫さんと初めてお目にかかり、高畠の運動の歴史をお聞きするなど、楽しいひと時を過ごしました。

高畠町町民憲章の二つ目の誓いである「温かい心を育て、生きがいのある町づくり」と、浜田広介の童話の根底に流れるあたたかな心が、20年の歳月を経て大きく花開いたことを実感した20周年記念式典となりました。

（報告・山橋由貴子）

一人ずつ賞状をうけとり、
最期は全員で記念撮影



※1 まほろば

素晴らしい場所、住みやすい場所を意味し、美しい日本の国土とそこに住む人々をたたえた古語。古事記（712年）の中に、日本武尊（やまとたけるのみこと・日本の皇族）が詠んだ和歌にある。

『倭は 国の真秀ば 量なづく 青垣 山隠れる
倭し 麗し』

大和（現在の奈良県）は日本の中で最も素晴らしいところだ。青く重なりあうように連なった山々に囲まれた大和は美しい。

※2 浜田広介

高畠町出身。童話作家で、日本のアンデルセンとも呼ばれる。日本の児童文学の先駆的存在で、作家人生50余年で、約1,000編もの童話や童謡を世に送り出す。代表作は「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」など。

高畠「小さな親切」の会

代表 島津仁道（金寿院住職）
事務局長 青木敏雄（元学校長）
事務局 高畠町郷土資料館内

